

石牟礼道子の文学世界と水俣病

ひとり芝居「天の魚」&シンポジウム

てん いき

久保田好生

上野俊哉

最首悟



写真提供 伊藤芳保

企画・チラシデザイン 森下直紀

脚本 砂田明

出演 川島宏知

舞台監督 白木喜一郎

2019年

10月27日(日) 先着予約制

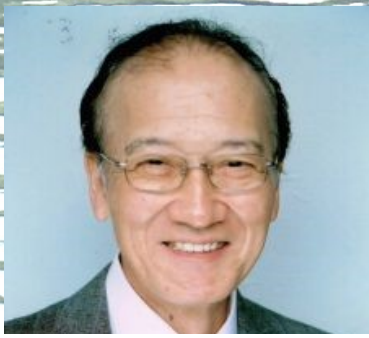
- ① 「天の魚」〈昼の部〉：13時開演（12時30分開場）
- ② 講演&シンポジウム：15時開催（14時45分開場）
- ③ 学生有志によるダンスパフォーマンス：17時15分開演（17時開場）
- ④ 「天の魚」〈夜の部〉：18時開演（17時45分開場）

主催：和光大学地域連携研究センター 協力：東京・水俣病を告発する会

環境が壊れて行くときの恐ろしさは、肢体が不自由になったり、目に見えるように健康を害することなんかじゃない。人間として生きる、生物として生きる原信頼のようなものが、ある意味では「世界」が、そりそりりと崩れ去っていくことだ。『苦海浄土』はそんなマイルドで巨大な崩壊の怖さを教えてくれる。

この芝居で語られる豊かな不知火海の暮らしは、水俣病だけでなく、過剰漁業の自然枯渇などでもう帰っては来ない。だからこそ、後付け的に美化されよう。50年後、私たちが、後付けの美化せざるを得ないもの、それは一体何なのか？

（堂前雅史「劇評『天の魚』」・水俣・和光大学展2006）



出演：川島宏知

1946年 高知県生まれ。舞台芸術学院にて「天の魚」を最初に演じた砂田明氏の教えを受け、卒業後、同氏の「地球義塾」に参加。「天の魚」公演の当初からのスタッフで、2006年「水俣・和光大学展」の初演以降芝居を継承。全国各地の教育委員会主催公演など公演多数。その他に、舞台、TV、映画に出演するとともに、外国語吹き替え、ナレーション等に携わる。

講演：最首悟

1936年 福島県生まれ。1976年に重度複合障害をもつ娘さんの誕生を機に、障害者への差別や偏見が未だに根深く残る社会に向けて発言を続けている。1977年、第一次不知火海総合学術調査団に参加。1981年より第二次不知火海総合学術調査団の団長。2006年の「水俣・和光大学展」を主宰。著書に、『水俣の海底から』（1991）、『星子がいる』（1988）など多数。



シンポジウム「石牟礼道子の文学世界と水俣病」

森下直紀（和光大学・司会）

最首悟 × 上野俊哉（和光大学） × 久保田好生（季刊水俣支援編集部）

ダンスパフォーマンスプロジェクト メリーゾム

Dance Performance Project Merry Zome

和光大学大橋さつき研究室を母体として、学生・卒業生による舞台活動を展開。身体表現を中心に様々な表現要素を絡め、若さ溢れる舞台を繰り広げている。

※資料代として一人500円を受付時にお支払いください。

（「天の魚」上演を2回鑑賞される場合は、1,000円となります。その他の演目は重複可能です。）

会場へのご案内

小田急小田原線 鶴川駅<各駅停車/準急/区間準急停車駅>(南口)から徒歩15分

和光大学体育館「パレストラ」1階ダンス室

※ 来場者用の駐車場は有りません。



【ご予約・お問い合わせ先】

和光大学 地域連携研究センター(担当 岡本)

※参加を希望される演目番号(表面①②③④)を添えて、お名前、連絡先とともに、表題に「石牟礼道子の文学世界と水俣病 参加希望」と明記の上、お申し込みください。

例:参加希望①・②・③

TEL: 044-989-7478

FAX: 044-988-1594

MAIL: event@wako.ac.jp

- ① 「天の魚」 〈昼の部〉
- ② 講演 & シンポジウム
- ③ ダンスパフォーマンス
- ④ 「天の魚」 〈夜の部〉